美術工芸資料館収蔵品紹介 | 47 KITnews Vol.55 8

## 正倉院宝物の模写図とガラススライド

## 明治から戦前期の教育資料ー -奈良女子高等師範学校と京都高等工芸学校展から

美術工芸資料館 特任助教 和田積希

等工芸学校」展を開催した。催で「明治から戦前期の教育資料―奈良女子高等師範学校と京都高催で「明治から戦前期の教育資料―奈良女子高等師範学校と京都高

の伝統的な図柄や文様にもひろく関心を向けていたことがわかる。 アザインの参考資料としてさまざまな実物資料が収集された。ヨーロップザインの参考資料としてさまざまな実物資料が収集された。ヨーロップが、江戸時代までの絵巻や美術工芸品なども多数収集された。ヨーロップが、江戸時代までの絵巻や美術工芸品なども多数収集された。ヨーロップが35年に開校した京都高等工芸学校の図案科では、開校当初より明治35年に開校した京都高等工芸学校の図案科では、開校当初より明治35年に開校した京都高等工芸学校の図案科では、開校当初より明治35年に開校した京都高等工芸学校の図案科では、開校当初より明治35年に開校した京都高等工芸学校の図案科では、開校当初より明治35年に開校した京都高等工芸学校の図案科では、開校当初より

世別に輝(1778~1838)、住吉広定(1793~1863)に 渡辺広輝(1778~1838)、住吉広定(1793~1863)に 東を忠実に再現する考証家としても知られている。貫魚による正倉院 実を忠実に再現する考証家としても知られている。貫魚による正倉院 実を忠実に再現する考証家としても知られている。貫魚による正倉院 実や、雑葉、桑木阮咸第1号》、《螺鈿紫檀阮咸》などの図柄のほか、現 存最古の戯画と言われる正倉院文書に描かれた落書を「大大論」など も写し取られている。14点のうち《正倉院蔵(物)模様図》と題された 方点は、貫魚による模写図を貼り合わせて軸装されたもので、当時掛 図として頻繁に学生に提示されていた可能性が高い(図1・2・3)。 関として頻繁に学生に提示されていた可能性が高い(図1・2・3)。

調査の一環として開封され、宝物調査がおこなわれた。明治8年4天保年間以降勅封されていた正倉院は、明治5年に全国の社寺宝物貫魚がこれらの正倉院宝物をどこで写したのかは定かではない。



| 19C AN.3463-7 | 図1:守住貫魚《正倉院蔵(物)模様図 7)楽器図(模写)》



図2:「螺鈿紫檀阮咸」(図1部分



| 図3:「大大論」(守住貫魚《正倉院蔵(物)模様図 6) 雑品之図(模写)》| 図3:「大大論」(守住貫魚《正倉院蔵(物)模様図 6) 雑品之図(模写)》

青類は、東京に一時移送されている。 書類は、東京に一時移送されている。 書類は、東京に一時移送されている。 青江東大寺大仏殿および回廊を会場として奈良博覧会が開催される まれていたようである。この博覧会終了後、修復が必要な宝物や立 されていたようである。この博覧会終了後、修復が必要な宝物や立 はいる。このはいる。このはいる。 「正常院宝庫御物」

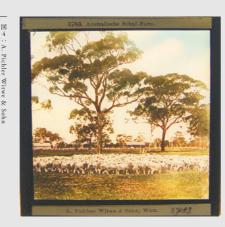
また、貫魚による巻子形式の《正倉院蔵(物)模様図 装束之図》にN3463-9)下巻冒頭をみると、「正倉院御庫中 天平宝字化下二巻」「明治十年東京浅草御文庫 一月日々拜写処二」と記されている。浅草文庫とは、大学や官庁が所有していた江戸時代以来れている。浅草文庫とは、大学や官庁が所有していた江戸時代以来の書籍額を前身とする図書館である。同8年に浅草に移ってリニューアルオープンし、古典籍や古書画の閲覧や模写も許可していた。明治8年の奈良博覧会終了後には、一時的に正倉院文書の整理た。明治8年の奈良博覧会終了後には、一時的に正倉院文書の整理た。明治8年の奈良博覧会終了後には、一時的に正倉院文書の整理た。明治8年の奈良博覧会終了後には、一月日々拜写処二」と記さいます。

さて、2つめは、明治・大正時代に普及した新しいメディアであるガ

コッペの美術史をまなぶためのスライドま、弐田や、桟井の正条、コッペの美術史をまなぶためのスライドま、弐田や、桟井の正条、である。幻燈機をつかってガラススライドに光をラススライド(幻燈)である。幻燈機をつかってガラススライドに光をラススライド(幻燈)である。幻燈機をつかってガラススライドに光をラススライド(幻燈)である。幻燈機をつかってガラススライドに光をラススライド(幻燈)である。幻燈機をつかってガラススライドに光をラススライド(幻燈)である。幻燈機をつかってガラススライドに光をラススライド(幻燈)である。幻燈機をつかってガラススライドに光をラススライド(幻燈)である。幻燈機をつかってガラススライドに光をラススライド(幻燈)である。幻燈機をつかってガラススライドに光をラススライドは、気田や、桟井の正条、

京都高等工芸学校でも開校当初より多くのスライドが購入されて にるが、今回はおもに大正時代に収集されたものをとりあげた。明 治45年と大正2年(1912)の2度にわたって購入されたョー ロッパの美術史をまなぶためのスライドは、武田や、浅井の死後、 図案科の教授に就任した建築家本野精吾(1882~1944) 図案科の教授に就任した建築家本野精吾(1882~1944) の選定によるものと考えられる。いずれもベルリンのFranz Stoedtner (1870~1946)の研究所製のもので、1度目は古代ギリ シャ、ローマ、エジプト、ペルシャのものが、2度目は中世ョー ロッパのものが選択されている。考古資料や工芸品も含まれている が、建築装飾に焦点をあてたものが多く、武田、本野主導となった 当時の図案科の教育方針を反映している。

れぞれの教育目的に応じた教材を収集し、学生に提供していた。真資料などもうまく利用しながら、教員と産業指導者の養成というそ最新の情報までを網羅するため、実物資料に加え、模写や模造品、写このように同時代に高等教育をめざした両校では、古代の文物から



20 C 初、ウィーン、AN.2223



## **参考文献**

西洋子『正倉院文書整理過程の研究』吉川弘文館、2002河野太郎『画人 守住貫魚』徳島県出版文化協会、1971

美術工芸資料館収蔵品紹介 | 47 KITnews Vol.55 17